

## 2025年2月9日（日）第二礼拝「ヤコブのリバイバル」創世記30章25～43節

「それで、この人は大いに富み、多くの群れと、男女の奴隷、およびらくだと、ろばとを持つようになった。」(創世記30：43)ヤコブとその家族、財産は祝福され、増えました。同様に私たちも祝福の基となり、多くの魂が救われ、増えることを、神様は願っておられます。

第一番目、ベテルの祝福です。ヤコブがエサウから逃れ、叔父ラバンの家に行く途中、ベテルで、天のはしごと、それを上り下りする御使いを夢で見ました。そして、神様はヤコブを祝福されました。「…この地を、あなたとあなたの子孫とに与える。あなたの子孫は…多くなり…地上のすべての民族は、あなたの子孫によって祝福される。…」(創世記28：13～15)「子孫」とは、イエス・キリストのことです。これは、イエス様によって全ての民族が祝福され、永遠のいのちが与えられるという約束であり、神様はヤコブとともにいて、約束したことを成就すると誓われました。その祝福の約束を受けたヤコブによって、ラバンの家は祝福されたのです。このヤコブの祝福は、アブラハムの祝福でもあります。イエス様を信じる私たちもまた、アブラハムの祝福を受け継ぐ者であり、どこにいても祝福されるのです。

第二番目、信仰の法則です。ヤコブはラバンと契約を結びました。一般的なやぎと羊の毛は、白か黒ですが、ヤコブの所有となるのは、しま毛、ぶち毛、まだら毛のものでした。それらが生まれる確率は非常に低く、ラバンとの契約はヤコブにとって不利なものでした。しかし、ヤコブはポプラ等の木の若枝の皮をはいで、水ための中に置き、群れに水を飲ませました。それを見ながら、しま毛、ぶち毛、まだら毛のものが増えるように、ヤコブは祈ったのです。すると、群れにさかりがついて、なんと、しま毛、ぶち毛、まだら毛のものを産んでいきました。これは、生物学的に説明が不可能なことです。まさに、死んだものをよみがえらせ、無いものをあると言われる神様の奇跡でした。信仰を持ち、自分の所有する財産のために祈った通りに、ヤコブの財産は増えていき、リバイバルしたのです。この度行われる3日間の祈り会で、不可能と思える主の御業が、日本に起こることを信じます。

第三番目、信仰は行動です。ヤコブはラバンの家畜のために、昼夜、懸命に世話をし、誠実に働きました。かつて、ヤコブはベテルで請願をたてていました。それは、神様がともにおられ、旅路が守られ、衣食が与えられ、ヤコブ自身が父の家に帰ることができ、主がヤコブの神様となってくださるなら、ヤコブが立てた石の柱は神の家となり、神様を礼拝し、必ず十分の一を捧げるという請願でした(創世記28：20～22)。

この立てられた石とは、イエス・キリストであり、神の家、教会です。ヤコブは礼拝者として歩むことを決意し、福音宣教のために、十分の一献金をすることを神様に誓ったのです。自分に任された働きに誠実に歩んだヤコブとともに、神様は働かれ、ヤコブの財産を守り、増やしてくださったのです。私たちもまた、ヤコブの祝福、ヤコブのリバイバルを受け継ぐ者です。私たちもまた、福音宣教のために、自分に任された働きに誠実に歩む時、神様がともに働かれ、私たちの働きを祝福し、増やして下さいます。アーメン！